

平成 18 年度第 4 回研修会（ドイツ報告）

日時：平成 18 年 10 月 1 日（日）9：30～12：00

場所：鈴鹿青少年センター第 7 研修室

参加者：辻本、中森、杉本直、宮本美、加藤、平子、石倉、伊藤、西村、矢野

- ・ 飛行機に乗せられる荷物は、一人 18 kg まで
- ・ ディスカッションのグループ分けは、動物の絵が描かれた紙が配られて、その動物の鳴き声だけで自分のグループをさがす
- ・ スポーツユーゲントは、知名度が高い（政治活動などでアピールができる）
(昔からの生活環境で、知っている人が多い)
- ・ ジュニアチームは、最近作られた（子供の上の立場なんだと自覚させる）
(大勢の人たちの前でしゃべったりして、やる気にさせる)

ドイツには、噴水と教会がたくさんある

何でもボリュームがある

ドイツでは、歴史のある建物を再利用する

ドイツは、暗くなるのが遅い

分散会のテーマは、21 世紀私たちは何ができるのか

ドイツでは、若者の意見を積極的に取り入れる指導者が多い

日本では、指導者が厳しい

日本からドイツへ行く財源は競輪の収益金からきている

最初はドイツのよいところばかりが目について、日本は悪いというイメージしかなかったが、途中からドイツの悪い点も見えてきて、日本のよい点なども再認識することができた。

ドイツでは最近、日本の学校教育の制度を取り入れて、クラブ活動を積極的に取り入れ始めたので、スポーツユーゲントとの両立が問題になっている

DS ヨットの中で、アルコール、ドラッグが問題になっていて、アルコール禁止運動がされているのも関わらず、試合会場などでは、未成年がアルコールを販売している。ドラッグも簡単に手に入ってしまうので、それも問題になっている。

ドイツでは、自然の景観を壊さないために、地下にスタジアムを掘り、地上にはできるだけ出さないようにされている